

健診項目と発達段階

項目設定における考え方

□項目設定における考え方

- ・健診の意義のひとつは、見逃してはいけない疾患や障害の早期発見である。
- ・健診の手法としては、設定項目を児が通過できなかった場合に、把握しフォローするというやり方採っている。
- ・健診においては、偽陰性だけでなく偽陽性も少なくしたい（心理的・経済的負担を鑑みて）。このため当該年齢で受診児全体の9割程度が可能な項目を設定する（例：3歳児健診→2：6水準の項目を設定）。

※発達段階表について

- ・項目：健診を実施する際、最低限記憶しておくべき発達項目を挙げた。
- ・時期：健診会場で確認できる時期（〇歳△か月）を示した。やりはじめ、ではなく、概ねできるようになる時期ということ。
- ・便宜上、かなり割り切った記述になっている点は留意すること。

		疾患・障害	
		あり	なし
検査	陽性	真陽性	偽陽性 (取り過ぎ)
	陰性	偽陰性 (見落とし)	真陰性

$$\text{感度} = \frac{\text{真陽性}}{\text{真陽性} + \text{偽陰性}}$$

$$\text{特異度} = \frac{\text{真陰性}}{\text{偽陽性} + \text{真陰性}}$$

時期ごとの把握しやすい特性

□時期ごとの把握しやすい特性

- ・健診においては、時期ごとに把握しやすい特性がある（右表）。
- ・一般的に言って、重度の障害（＝生活全般に困難をきたす）の方が、軽度の障害（＝生活の一部にしか困難を生じない）よりも、早い時期に把握しやすい。
- ・健診を実施するにあたっては、当該年齢においてどのような特性が把握しやすいか、意識しておく必要がある。

□精神障害について

- ・生得性の過敏さを中核とするパーソナリティ障害と、環境性の不安定さを中核とする不適切養育関連精神症状とは、しばしば鑑別が困難である。
- ・パーソナリティ障害と不適切養育関連精神症状とを見分けられるのは、（とりわけ健診のような短時間の観察では）3歳児健診以降と考えるべきである。ただし、1歳半健診・2歳児健診においても、精神的に不安定な児であることは把握できるので、（パーソナリティ障害か不適切養育かの区別に拘泥するのではなく、どちらにせよ支援は必要なのだから）積極的にフォローの対象とすべきである。

	1：6	3：0	5：0
知的障害 (重)	☆		
知的障害 (軽)		☆	
発達障害 (自閉スペクトラム)	☆		
発達障害 (ディスレクシア)			☆
精神障害 (パーソナリティ障害)	※	☆	
精神障害 (不適切養育)		☆	

※精神発達領域のみを挙げている

問い合わせ先

山梨県立こころの発達総合支援センター
 〒400-0005
 山梨県甲府市北新一丁目2-12
 山梨県福祉プラザ内
 TEL：055-254-8631

0 : 0

0 : 3

0 : 6

運動発達

あお向け時に屈曲位・左右非対称（非対称性緊張性頸反射）（0 : 0）

※原始反射が存在する：
モロー反射
非対称性緊張性頸反射
手の把握反射
足の把握反射

あお向け時に伸展位・左右対称（非対称性緊張性頸反射が消退する）（0 : 4）
首が据わる（0 : 4）
音の方向に顔を向ける（0 : 4）
自分の手を眺めたり両手を触れ合わせる（0 : 4）
うつ伏せ時に前腕で身体を支える（0 : 5）
見えたものの方に手を伸ばして掴む（リーチング）（0 : 5）
足を掴んで舐める（0 : 5）

寝返りをする（0 : 6）
おすわり時に手をつくが背中には伸ばす（0 : 6）
うつ伏せ時に手掌で身体を支える（0 : 6）
うつ伏せ時に旋回する（0 : 7）
ずり這いで移動する（0 : 7）
おすわり時に手の支えが要らなくなる（0 : 7）
おすわり時に身体を回転できる（0 : 8）
指の腹で物をつまむ（0 : 8）

認知発達

注視ができる（0 : 2）

追視ができる（0 : 3）

物を見比べる（0 : 6）
目の前から消えても物が無くならないことがわかる（対象永続性）（0 : 8）
手段と目的とが分化しはじめる（0 : 8）
ジャルゴン様の喃語が出現する（0 : 8）

関係発達

周囲と情動的に共鳴し笑顔を見せる（自発的微笑）（0 : 0）
向かい合う相手と目が合う（0 : 2）
目が合ったときに笑う（社会的微笑）（0 : 2）

主たる養育者とそれ以外の他者とを区別するようになる（選択的微笑）（慣れない相手の場合は顔をじろじろ見る）（0 : 5）

人見知りが始まる（0 : 6）
後追いをする（0 : 8）

補足

身長50cm
体重3kg

身長60cm
体重6kg

身長67cm
体重8kg

0 : 9

1 : 0

1 : 6

粗大運動

四つ這いで移動する
(0 : 9)
つかまり立ち (0 : 9)
つたい歩き (0 : 10)

一人歩きがはじまる
(1 : 0)

安定して歩くことができる
(1 : 6)
方向転換することができる
(1 : 6)
ボールを前に蹴る
(1 : 6)

微細運動

物を放り投げる
(0 : 10)
指の先で物をつまむ
(0 : 11)

殴り書き (1 : 0)
積み木を積む (1 : 0)
物をつまんで瓶の中に入れ
る (1 : 0)
蓋を閉める (1 : 2)
スプーンですくう
(1 : 3)

円錯画がかける (1 : 6)
積み木をまっすぐ並べる
(1 : 6)
型はめができる (1 : 6)

認知発達

鏡に映った自分を他人と見
分ける (0 : 10)

目的を達するために様々な
手段を試すようになる
(1 : 0)

表象が形成され見立て遊び
や再現遊びができるよう
になる (遅延模倣)
(1 : 6)
丸・三角・四角など基本的
な図形を認識する
(1 : 6)

言語発達

「ちょうだい」という声掛
けに反応し相手に渡そうと
する (0 : 10)
名前を呼ばれると顔を向け
る (0 : 10)
初語の出現 (0 : 10)

一語文の成立 (1 : 0)
「O×はどれ？」と問われ
たときに正解の絵を指すこ
とができる (応答の指差
し) (1 : 3)

語彙習得が加速する
(1 : 6)

関係発達

相手の指差しを理解できる
(共同注意の成立)
(0 : 9)
判断に迷ったとき相手の表
情を見て判断する (社会的
参照) (0 : 9)
即時模倣ができる
(0 : 9)
指差しの先が背後の場合に
振り返って見る
(0 : 11)

自分から指差しをすること
で相手の注意を誘導する
(要求の指差し・叙述の指
差し) (1 : 0)
物を見せたり渡したりして
相手の注意を誘導する
(1 : 0)
能動的な共同注意行動の時
に視線を対象物と相手との
間で往復させる (1 : 1)
分離不安が出現する
(1 : 2)
移行対象が出現する
(1 : 2)

共同注意の対象が非現前の
ものや表象に拡大する
(1 : 6)

補足

身長70cm
体重8.5kg

身長75cm
体重9kg

身長80cm
体重10kg

	2:0	2:6	3:0
粗大運動	<p>走ることができる (2:0)</p> <p>その場で両足ジャンプができる (2:0)</p> <p>速度の調節ができる (2:0)</p>	<p>前方へ両足ジャンプできる (2:6)</p> <p>片足立ちができる (2:6)</p> <p>足を交互に出して階段を登る (2:6)</p>	<p>平均台を渡る (3:0)</p> <p>三輪車をこげる (3:0)</p> <p>でんぐり返しができる (3:0)</p>
微細運動	<p>直線がかける (2:0)</p> <p>衣類の着脱を始める (2:0)</p> <p>ハサミを使う (2:0)</p> <p>スプーンを正しく持てる (2:0)</p> <p>グーチョキパー (2:0)</p>	<p>丸がかける (2:6)</p> <p>靴をひとり履ける (2:6)</p> <p>だいたいこぼさずに食べられる (2:6)</p>	<p>十字がかける (3:0)</p> <p>ボタンをはめる (3:0)</p> <p>衣類の前後や左右が分かる (3:0)</p> <p>ハサミで線に沿って切れる (3:0)</p>
認知発達	<p>「おおきい・ちいさい」など二項比較がわかる (2:0)</p>	<p>「どうして」(因果関係)がわかる (2:6)</p> <p>「はんぶんこ」(等分)がわかる (2:6)</p> <p>赤・青・黄・緑の色のマッチングや呼称ができる (2:6)</p>	<p>「じゅんばん」がわかる (3:0)</p> <p>過去・現在・未来など三項比較がわかる (3:0)</p> <p>見通しがもてる (3:0)</p>
言語発達	<p>二語文の成立 (2:0)</p> <p>おしっこの予告をする (2:0)</p>	<p>多語文・従属文の成立 (2:6)</p> <p>姓名・年齢・性別を答えられる (2:6)</p>	<p>絵本のストーリーがわかる (3:0)</p>
対おとな	<p>自我境界が成立して拒否など自己主張をするようになる (2:0)</p> <p>短時間であれば養育者から離れて行動する (2:0)</p>	<p>何でも自分でしたがる (2:6)</p> <p>何でも質問する (2:6)</p> <p>折り合いをつけられるようになる (2:6)</p>	<p>おとなは教える側で自分は教わる側というタテ関係(教示関係)がわかる (3:0)</p> <p>一対一で具体的に与えられた指示を守ることができる (3:0)</p>
対こども	<p>他児への関心はあるが一緒には遊べない(パラレル遊び) (2:0)</p> <p>おもちゃを独り占めする (2:0)</p>	<p>ごっこ遊び(なりきり遊び)をする (2:6)</p> <p>おとなが仲介すれば他児と一緒に遊ぶことができる (2:6)</p>	<p>おとなが仲介しなくても一対一であれば他児と遊ぶことができる (3:0)</p>
補足	<p>身長85cm</p> <p>体重11kg</p>		<p>身長93cm</p> <p>体重13kg</p>